CampbellCollaboration

Plain language summary
International Development

2019

金融包摂の介入は、その影響が非常に小さく、一貫性のないものである

Photo: Abhishek Reddy.m7 (CC BY-SA 4.0) from Wikimedia Commons. Cropped to fit.

金融包摂プログラムは、貧困層の金融サービスへのアクセスを増やすことを目的としている。

このレビューの目的は何か？
このレビューの系統的レビューは、金融包摂の影響の系統的レビューとメタアナリシスである既存のすべてのメタ研究を体系的に収集し、評価する。著者はまず、それらのメタ研究で使用された方法の強さを分析し、十分な質のあるものから得られた知見を総合し、最後に、政策、プログラミング、実践、そしてエビデンスから生じる更なる研究のための意味合いを報告する。11の研究が分析に含まれている。

広範な金融包摂プログラムは、低・中所得国の貧困層や低所得世帯の福祉を向上させるために、貧困層の金融サービスへのアクセスを増やそうとしている。金融包摂の介入による影響は小さく、変化に富んでいる。一部のサービスは一部の人々には多少のプラスの効果をもたらしているが、全体的な金融包摂は、卒業や生計への介入などの同等の代替手段と比較しても遜色がないかもしれない。

このレビューの目的は何か？

金融包摂プログラムは、クレジット、貯蓄、保険、送金などの金融サービスへのアクセスを増加させ、低・中所得国の貧困・低所得世帯が福祉を高め、機会をつかみ、ショックを緩和し、最終的に貧困から脱出できるようにすることを目指している。このレビューの系統的レビューでは、金融包摂から得られる経済的、社会的、行動的、ジェンダー関連の成果に関するエビデンスを評価している。

このレビューにはどのような研究が含まれているか？

このレビューには、経済的、社会的、ジェンダー、行動的アウトカムに対する様々な金融包摂の介入の影響に関する他の研究（メタスタディ）の知見を統合した研究が含まれている。合計32件の転移研究が特定されたが、そのうち11件は最終分析に含めるのに十分な方法論の質を有していた。このレビューでは、2010年以降の転移を調査し、地理的範囲という点で世界を網羅している。

このレビューの主な知見は何か？

介入による影響はマイナスの効果よりもプラスの効果である可能性が高いが、さまざまであり、しばしば混在している。また、影響の原因となる連鎖の初期段階で発生することが多いため、範囲や規模の変革的なものではないように思われる。全体的に見て、所得、資産、支出などの中核的な経済的貧困指標や、健康状態やその他の社会的アウトカムに対する金融サービスの効果は、小さく、一貫性がない。さらに、プラスの効果を増大させる意味のある行動変容の成果を示すエビデンスはない。

女性のエンパワーメントに対する金融サービスの効果は概して肯定的であるように見えるが、その効果は、金融サービス自体が周辺的なものであったり、金融サービスとは無関係であったりすることが多いプログラムの特徴（権利に関する教育など）、文化的・地理的文脈、エンパワーメントのどのような側面を考慮しているかに依存している。

貯蓄の機会へのアクセスは、貧しい人々にとっては、わずかではあるが、一貫してプラスの効果があるように見え、顧客にとっては、信用供与よりもマイナスのリスクが少ない。最終分析に含まれている多くのメタ研究では、合成の基礎となった主要な証拠ベースの質の低さに懸念を表明している。このことは、メタ研究の全体的な調査結果の信頼性に懸念を抱かせるものである。

このレビューの結果は何を意味するのか？

このレビューの系統的レビューは、金融包摂の影響に関するこれまでで最大規模のエビデンス・ベースに基づいている。発見された効果が弱いことから、以前にマイクロクレジットで起こったように、金融包摂に対する非現実的な誇大広告に警告を発している。実質的なエビデンスのギャップがあり、特に、顕在化するまでに時間がかかるより高いレベルの影響を測定する十分な期間の研究や、負債レベルや負債のパターン、マクロ経済の発展との関連性などの特定の成果についての研究は、大きなギャップがある。

本研究は、キャンベル共同研究によって発表されたレビューの最初のレビューである。このレベルの体系化では、いくつかの重要な限界に遭遇した。一次研究やメタ研究の著者は、研究の質についてより批判的に取り組み、その概念、データ、方法をより良く、より詳細に報告することが推奨される。社会科学や国際開発の文脈では、より多くの方法論のガイダンスやより明確な報告基準が有用であろう。

このレビューはどれぐらい最新のものか？

レビュー執筆者は2017年11月に研究を検索し、2018年1月に検索の要素を更新した。このキャンベル系統的レビューは2019年1月に発行された。

キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、キャンベル系統的レビュー”Impact of Financial Inclusion in Lowand Middle-Income Countries”に基づいてHoward White（キャンベル・コラボレーション）が作成したものである。レビューの系統的レビューはMaren DuvendackとPhilip Maderによる。Tanya Kristiansen（キャンベル・コラボレーション）が要約を再構成・編集した。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表する。

AIR® American Institutes for Research®

3ie 10 YEARS International Initiative for Impact Evaluation